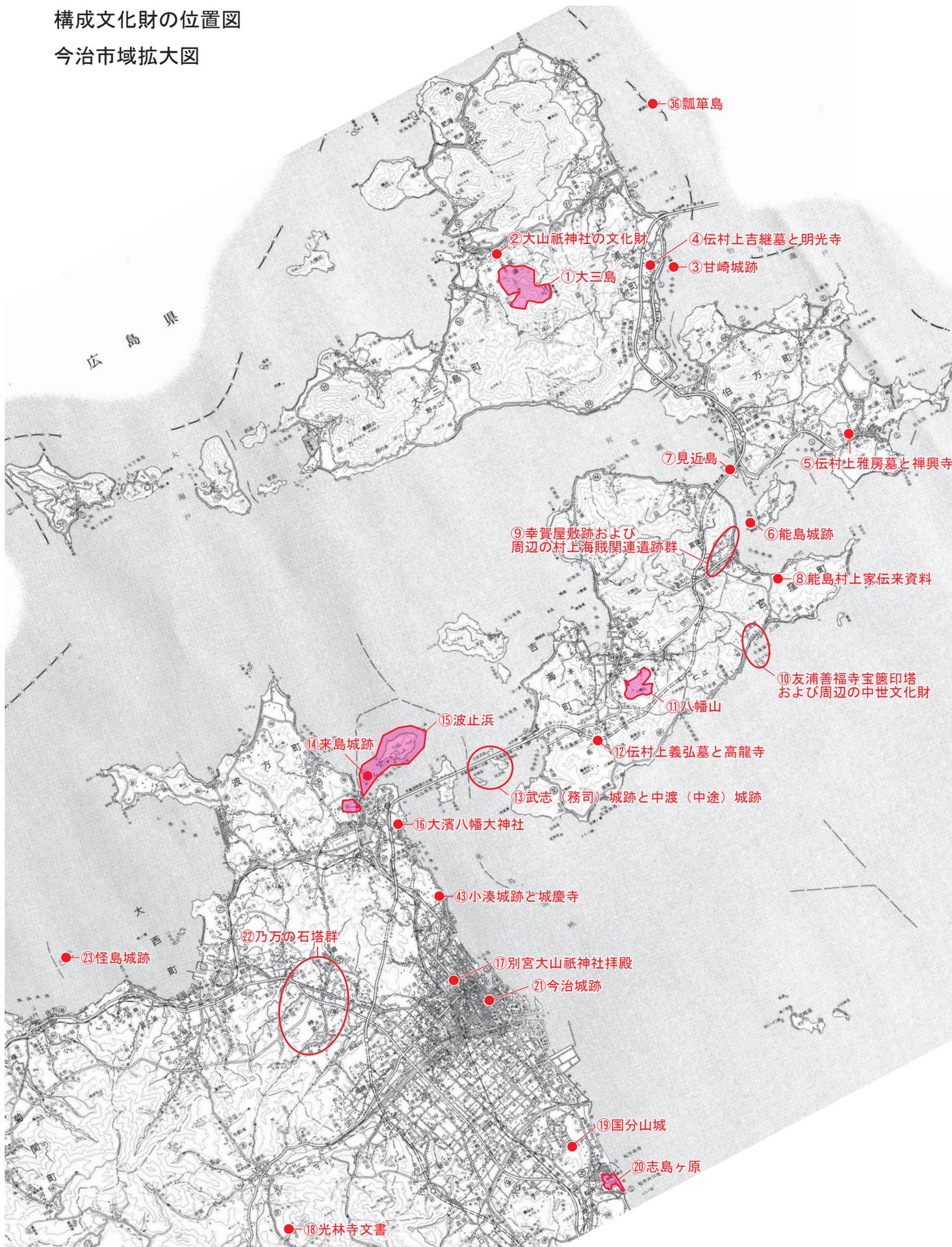


① 申請者	◎愛媛県今治市 広島県尾道市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
“日本最大の海賊”の本拠地：芸予諸島ーよみがえる村上海賊“Murakami KAIZOKU”の記憶ー			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>戦国時代、宣教師ルイス・フロイスをして“日本最大の海賊”と言わしめた「村上海賊」“Murakami KAIZOKU”。理不尽に船を襲い、金品を略奪する「海賊」（パイレーツ）とは対照的に、村上海賊は掟に従って航海の安全を保障し、瀬戸内海の交易・流通の秩序を支える海上活動を生業とした。その本拠地「芸予諸島」には、活動拠点として築いた「海城」群など、海賊たちの記憶が色濃く残っている。尾道・今治をつなぐ芸予諸島をゆけば、急流が渦巻くこの地の利を活かし、中世の瀬戸内海航路を支配した村上海賊の生きた姿を現代において体感できる。</p>			
  			
<p>(左) 村上海賊の海城・能島城と対岸の集落 (右上) 村上家伝来の陣羽織 (右下) 村上海賊ゆかりの郷土料理「水軍鍋」</p>			

構成文化財の位置図

今治市域拡大図



構成文化財の位置図

尾道市域拡大図



ストーリー

■瀬戸内海航路を掌握した「村上海賊」

1586年、堺を出港し、瀬戸内海を西へ航海していた宣教師ルイス・フロイスは、芸予諸島のある島に近づいた時のことを次のように記している。「その島には日本最大の海賊が住んでおり、そこに大きい城を構え、多数の部下や地所や船舶を有し、「強大な勢力を有していた」(『完訳フロイス日本史』)、と。フロイスをして「日本最大」と言わしめた海賊。それが「村上海賊」である。

瀬戸内海を東西に分断するかのように、島々が南北に密集して連なる「芸予諸島」。一見、穏やかに見える海況だが、狭い海峡(瀬戸)にいざ船を進めると、大潮時には高低差3m以上にもなる潮の満ち干きや、最大10ノット(時速約18km)の潮流が容赦なく襲う。古来より航海者を悩ませてきた**海の難所**である。「船に乗るより潮に乗れ」。この地域に古くから受け継がれる漁師たちの言葉がそれを物語る。

村上海賊は、このような芸予諸島の**因島(広島県尾道市)**、**能島(愛媛県今治市)**、**来島(同)**に本拠をおいた**三家**からなる。同じ村上姓を名乗る三家は強い同族意識を持ち、それぞれの領内に多くの「**海城**」を築いた。フロイスが見た「大きい城」は、これらの海城である。

因島村上氏は余崎城、美可崎城、長崎城、青木城など、沿岸部に海城を築き、安芸・備後国の陸地部に沿った航路(安芸地乗り)を押さえた。能島村上氏は能島城を中心に芸予諸島の中央を通過する最短航路(沖乗り)を、来島村上氏は来島城を中心に四国側の航路(伊予地乗り)を押さえ、**三家が連携をして芸予諸島の全域を掌握した**。

多くの海城の岩礁には、高低差のある潮の満ち引きに影響されず、いつでも船が係留できるように、陸から海に向かって柱が立ち並んでいた。また海岸部を埋め立てて平坦面を造成し、荷揚げや海産物の加工場、造船や修理場に利用されていた。海城には海賊たちが住み込み、海戦に備える一方で、そこを拠点として多様な海上活動に従事したのである。さらに能島城や来島城などは、その対岸に「水場」と呼ばれる海城に水や物資を供給する場を持ち、その一帯を城下町として生活の本拠としていた。航路に面した前線の活動基地である「海城」と、その対岸にある集落が一体となって、村上海賊の本拠地が形成された。**南北に連なる芸予諸島の地の利を最大限に活かし、「海城」を航路の要衝に配置することで「海の関所」とし、瀬戸内海の東西交通を支配したのである。**

■全盛期における村上海賊の海上活動

一般に「海賊」と聞いて思い浮かぶのは、理不尽に船を襲い金品を奪う無法者の姿。いわゆる「パイレーツ」であろう。しかし村上海賊の海上活動の実態を正しく紐解けば、決して悪者ではなく、むしろ**瀬戸内海交通の秩序を支える上で不可欠な存在**であったことがわかる。

村上海賊が歴史上に姿を現したのは南北朝時代である。1349年には「野嶋」(能島村上氏)の名が見られ、東寺領の荘園であった弓削島に入る幕府の**船を警固する役割を持った勢力**として登場した。この頃には海上の小勢力の一つに過ぎなかったが、やがて因島村上氏が**遣明船の警固を守護大名から命じられる**など、村上三家は陸の勢力との結束を固め、芸予諸島を本拠に瀬戸内海の主要な航路や港を掌握する一大勢力へと成長した。

戦国時代、村上海賊が活躍した海戦は枚挙に暇がないが、その代表的な海戦として、村上三家が連携をして織



瀬戸内海航路と主要海城の分布



村上海賊の海城・能島城と周囲の潮流(愛媛県今治市) 撮影者: 添畑薫氏

田信長方の船団に勝利をおさめた第一次木津川口合戦がある。中国地方の大名・毛利輝元は、室町幕府最後の将軍・足利義昭の命を受けて、信長と対峙する石山本願寺へ兵糧を運び込もうとする。毛利軍の主力であった村上海賊は、**海の難所で培われた巧みな操船技術**で敵を取り囲み、「ほうろく火矢」という火薬を用いた武器を用いて信長方を撃破し、無事に兵糧を運び入れることに成功した。この合戦で海賊の力を知った信長や羽柴秀吉は、海賊を味方につけ瀬戸内海の制海権を握るべく、懐柔作戦を展開する。村上海賊の存在は、**天下人や陸の大名の動向をも左右した**のである。

一方、平時には**芸予諸島の海城を拠点に様々な海上活動を展開**した。その一つが「**海の安全保障**」である。

芸予諸島に近づいたフロイス一行は、海賊に襲われる危険を回避し、航海の安全をはかるため、「署名」によって瀬戸内海を自由に通行できるよう、村上海賊に好意ある寛大な処遇を求めた。すると村上海賊は、「怪しい船に出会った時にみせるがよい」(『完訳フロイス日本史』)と言い、紋章が入った絹の旗と署名を渡した。フロイスらが手にしたこの旗が後に「**過所船旗**」と呼ばれる**通行許可証**である。村上海賊はこの旗を配布し、あるいは海賊を船に乗せて**水先案内**を行うことで、津々浦々に潜む他の海賊や航路の難所から船を守り、その対価として通行料を徴収した。海の難所であるからこそ、この掟は重視され、大名や商人の船はこれに従うことで航海の安全が保障されたのである。この通行料を徴収する海の関所を「**札浦**」と言うが、芸予諸島を基点として、全盛期には九州北部から畿内における航路の要港に「**札浦**」が設けられるほどに勢力を拡大した。

また海の安全保障者のほかに「**商人**」の顔も垣間見ることができる。能島城の目と鼻の先にある見近島は、商品である中国産の貿易陶磁器や備前焼を一時的に保管する物流の基地であった。村上海賊が物資流通に関与することにより、その**本拠地である芸予諸島には国内外の高級な品々や優雅な文化がもたらされた**のである。

■村上海賊の生活・文化

とかく猛々しいイメージで語られる海賊であるが、大名と同じように、優雅に茶や香をたしなむ「**文化人**」でもあった。また高い文学の教養を持っており、それを知るものとして、大山祇神社(今治市大三島)に奉納された「**法楽連歌**」がある。神の島と呼ばれる大三島に鎮座する大山祇神社は、その歴史は古代にさかのぼり、日本総鎮守、伊予国の一宮とされ、武功や海上交通の安全を守る神として海賊たちの信仰を集めた。このような由緒のある神社で、村上海賊の武将たちは自らの思いを詠み連ね、それを奉納することで武運を祈願したのである。因島では、武運を祈り、戦勝を祝って踊ったとされる「**棕浦の法楽踊り**」が現代に伝わっている。

さらに村上海賊には「**漁業者**」としての顔もあった。瀬戸内海の新鮮な魚介類を獲り、時には、それをお歳暮として陸の大名に送り届けた。芸予諸島で食される海鮮料理「**法楽焼**」や「**水軍鍋**」は、村上海賊時代から伝わる郷土料理とされており、豪快に盛られた海の幸に、海賊たちの食文化を垣間見ることができる。

このように、村上海賊が築いた海城市群、海賊たちが崇めた寺社、伝統を受け継ぐ海の文化は、現在もこの地域に色濃く残っている。**尾道・今治をつなぐ現在の芸予諸島をゆけば、瀬戸内海随一の美しい多島海とともに、中世の瀬戸内海航路を支配し、“日本最大の海賊”と称された村上海賊の記憶をたどることができる。**



「怪しい船に出会った時にみせるがよい」
村上海賊から交付される過所船旗



大山祇神社で法楽連歌を詠む海賊たち
(香川元太郎画)

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	おおみしま 大三島	国名勝	村上海賊が本拠を置いた芸予諸島の多島美を象徴する景観が残り、村上海賊が氏神として崇めた大山祇神社が鎮座する。	今治市
②-1	おおやまつみじんじや 大山祇神社の文化財	国宝・国重文・ 国天然記念物	村上海賊ら海の武将たちは、境内にクスノキが群生する荘厳な雰囲気漂う大山祇神社を氏神として崇め、武運や海上交通の安全を祈った。名高い武将らが奉納したとされる武具・武器類の中に、村上海賊の武将もその名を連ねる。鎌倉末期の巨大な宝篋印塔は、尾道の大工念心の銘が刻まれ、職人たちの活発な南北の交流を見ることができ、このような芸予諸島の紐帯関係を背景に、村上海賊がこの地で台頭したと考えられる。	今治市
②-2	大山祇神社法楽連歌 ほうらくれんが	国重文(典籍)	戦国時代には、連衆の中に村上海賊の武将たちの名も見え、海賊の高い教養や文化力を知ることができる。海賊たちは由緒ある大山祇神社で自らの思いを詠み連ね、武運を祈ってそれを奉納した。	今治市
③	あまざき 甘崎城跡	県史跡	中世には、能島村上氏系の今岡氏や村上吉継(来島村上氏)の拠点であった。島全体を城郭として利用した海城で、海の難所とされる鼻栗瀬戸を押さえる位置にある。村上海賊が去った後も、藤堂氏によって近世城郭として改修された唯一の中世海城。	今治市
④	よしつぐ みようこう 伝村上吉継墓と明光寺	未指定	村上吉継の墓と地元で言い伝えられている宝篋印塔が祀られている。明光寺は、村上吉継の居城であった甘崎城の対岸にある「水場」集落にあり、近世初期に甘崎城を改修した藤堂氏がこの地に移したとされる。	今治市
⑤	まさふさぎ ぜんこう 伝村上雅房墓と禅興寺	市天然記念物	はかた きのうら 伯方島木浦地区にある禅興寺は、能島村上氏の村上雅房の菩提寺と言われる。近くには、樹齢600年を超えるとされるオオクスがあり、その根元に雅房夫妻の墓があったと地元で伝わっている。	今治市

⑥	のしま 能島城跡	国史跡	能島村上氏が居城とした典型的な海城で、大島と鶴島との間の宮窪瀬戸にある。島の頂部から三段に削平して郭とし、東側、南側に延びる鼻の頂部にも出郭を形成した。周囲の岩礁地帯には、護岸や船を繋ぐための施設である無数の柱穴が残る。南北朝時代から戦国時代末期に機能した。	今治市
⑦	みちかじま 見近島	未指定	能島城の北方約 1 km に位置する能島村上氏の物流基地。小規模集落から、大名の城館に匹敵する質・量の貿易陶磁器や備前焼など流通品が出土した。	今治市
⑧	のしま 能島村上家伝来資料群	市有形含む	今治市村上水軍博物館で保管・展示している能島村上家に伝わる資料。全盛期の当主、村上武吉が着用したと伝わる猩々陣羽織や、中世の黒韋威胴丸、色々威腹巻などがある。	今治市
⑨	こうがやしき 幸賀屋敷跡および周辺の 村上海賊関連遺跡群	市史跡	能島村上氏の陸地部の拠点集落推定地。「幸賀屋敷跡」や隣接する「さんの遺跡」では、14 世紀から 17 世紀初頭にかけての遺物が出土し、その背後に延びる丘陵には郭跡が確認され、「宮窪城」と地元では呼ばれている。近くには村上氏の菩提寺とされる旧証名寺跡があり、その周辺には、「かしや(鍛冶屋)」「ばんぢよ給(番匠給)」など城下町を思わせる地名が残る。また能島城対岸には「水場」という地名が残り、能島城に水や物資を供給する拠点であったと推測される。さらに、現在の証明寺および海南寺には中世の宝篋印塔が残るなど、陸地部には村上海賊時代の文化財が色濃く残っている。	今治市
⑩	ともうらぜんぶくじほうきょういんとう 友浦善福寺宝篋印塔および 周辺の中世文化財	国重文(石造 美術)・市有形	村上海賊の前身となる伊予大島の有力な勢力が存在していたことを示す鎌倉時代末期、嘉暦元(1326)年銘が入った宝篋印塔。友浦地区周辺には、鎌倉時代中期の善福寺地藏菩薩立像など、同時代の文化財が多く残る。その沖合には、村上海賊の時代の海城、九十九島城が築かれた。	今治市
⑪	やわたやま 八幡山	国名勝	村上海賊が活動した島々の美しい景観が眼下に広がる景勝地。大島のほぼ中央部にある標高 215m の八幡山の頂上からは名勝大三島、同波止浜をはじめ、瀬戸内海一帯の島々を眺めることができる。	今治市

⑫	伝村上義弘墓と高龍寺 よしひろ こうりゅう	未指定	南北朝時代に活躍したとされる村上氏の伝説的武将、村上義弘の墓と地元で伝わる宝篋印塔とその菩提寺。義弘の人物像は不明だが、南朝方を救った武将として、村上武吉と並んで地元では英雄的存在。	今治市
⑬	武志(務司)城跡と中渡 (中途)城跡 むし なかと	未指定	来島海峡を押さえるために築かれた能島村上氏の海城。来島海峡の西側は来島村上氏の来島城が、中央と東側は能島村上氏が分担をして海峡を支配した。1585年、羽柴秀吉の四国平定により、能島村上氏は両海城を明け渡した。	今治市
⑭	来島城跡 くるしま	未指定	来島村上氏の居城であった来島城。島の自然地形を活かして多くの郭が築かれた。島の周囲の岩礁には、無数の柱穴があり、船を繋ぐための施設が充実している。関ヶ原合戦後に廃城となったと考えられる。	今治市
⑮	波止浜 はしはま	国名勝	来島村上氏の居城、来島城を含む芸予諸島の多島美を象徴する景勝地。村上海賊が生きた当時の景観が残る。	今治市
⑯	大濱八幡大神社 おおはま	未指定	来島城の城下町として史料に登場する大濱地区に鎮座する。大永4(1524)年の同社造営棟札は、来島村上氏が来島城に在城していたことを示す初見史料である。	今治市
⑰	別宮大山祇神社拝殿 べっく おおやまづみ	県有形	天正3(1575)年に来島村上氏の村上通総 <small>みちふさ</small> が拝殿を修築した大山積神を祭神とする神社。	今治市
⑱	光林寺文書 こうりん	市有形	能島村上氏全盛期の当主村上武吉が同寺に灯籠を寄進したことを示す古文書。	今治市
⑲	国分山城跡 こくぶんさん	未指定	天正12(1584)年に村上武吉が普請(築城・改修)した今治平野の拠点城郭。今治城が築かれるまで機能した。	今治市
⑳	志島ヶ原 ししまがはら	国名勝	かつて村上海賊が眺めた瀬戸内海を象徴する「白砂青松 <small>はくさせいしょう</small> 」の景勝地。村上海賊が普請した国分山城の麓に広がる。	今治市
㉑	今治城跡 いまばり	県史跡	村上氏が去った後、国分山城に替わって藤堂高虎 <small>とうどうたかとら</small> が築いた当時最新鋭の近世海城。来島海峡の地政学的重要性が村上海賊時代から継承されたことを示し、芸予諸島に残った海の人々がこの城を舞台に活躍した。	今治市

②②	乃万地区の石塔群	国重文(石造美術)	村上海賊の時代に発展を遂げる島々をつなぐ南北の交流の礎となった、鎌倉時代末期から南北朝時代の石造文化を代表する宝篋印塔群。乃万地区の延喜・野間・神宮などに多くみられる。その意匠に芸予諸島を介した職人の移動の証を見ることができる。	今治市
②③	怪島城跡	市史跡	来島村上氏の家臣である神野左馬允の居城と伝わる城。小島全体を城郭化した海城で、島の頂部に郭が形成される。	今治市
②④	因島村上家伝来資料群	県重文・市重文	因島水軍城で保管・展示している因島村上氏の末裔に伝来する資料白紫緋糸段緘腹巻 一領、紙本着色村上新蔵人吉充像 一幅、紙本墨書因島村上家文書 卷子3巻などがある。	尾道市
②⑤	因島村上氏一族の墓地	市史跡	因島村上氏の本拠であった中庄に造営された菩提寺に、かつて分散していた因島村上氏一族や家臣の墓とされる宝篋印塔18基と多くの五輪塔が裏山の墓地に集積されている。	尾道市
②⑥	青木城跡	県史跡	因島村上新蔵人吉充が向島の余崎城より移り居城した。因島のほぼ北端、城は現在の重井東港を望む小丘陵上に在り、比較的旧状をよく保った郭が5段重なり、武者走りも残っている。	尾道市
②⑦	青陰城跡	県史跡	この城は海城ではなく、戦国山城であり長崎・青木・余崎などの連絡場所であった。因島村上氏が戦国大名の性格をもつと、本城の役割を果たすようになった。因島のほぼ中央部、風呂山と龍王山に挟まれた青影山頂にあり、三庄方面を除く島のほぼ全域及び周辺海域が見渡せる場所に位置している。	尾道市
②⑧	長崎城跡	県史跡	因島村上氏の初期の本拠地で、海側には岩礁ピットも残っている。航路を見張る重要な拠点であった。因島の南西部、瀬戸に面した海城であり、背後の丘陵には荒神山城跡がひかえる。	尾道市

②⑨	しらたきやま 白滝山（五百羅漢像）	市名勝	白滝山は因島村上氏の村上吉充が青木城を築いたとき、この山を控えの要害として設定し観音堂を造営した。その後、柏原伝六は観音道一観と称し大石仏三尊像や、五百羅漢の石仏工事に着手した。一体ずつ顔が異なる石仏は700体ほどあり、松林と岩石の自然に溶け込んで独特の雰囲気醸し出している。	尾道市
③⑩	地蔵鼻（鼻の地蔵）、 みかきまきじょうあと 美可崎城跡	市史跡	美可崎城は、航路に面した海城で、古くから海の関所として機能していた。郭跡や船隠しなども残っている。地蔵石は、戦国時代の石造物で美可崎城の武将と船で通りかかった娘との悲しい伝説を残す巨岩に彫られた石仏である。	尾道市
③⑪	岡島城跡	未指定	港町尾道の玄関口に位置し、かつては、「関の大将」と呼ばれた大海賊の居城であったが、その後、小早川隆景と手を結んだ因島村上氏により、駆逐され、因島村上氏の城となった。	尾道市
③⑫	よさき 余崎城跡	未指定	弘治元年の厳島の戦いでの報償として向島を得た村上氏の本拠地として、因島に面した向島南部の半島に築かれた海城である。岡島城跡とともに港町尾道への航路をにらむ重要な拠点であった。郭跡や船隠しなどが残り、また、現在でも当時の姿の美しい景観を残している。	尾道市
③⑬	むくのうら 棕浦の法楽おどり	県無形民俗	村上海賊が、出陣の時は棕浦で戦いの勝利と隊士の安全を祈り、帰陣の際は勝利を祝うとともに戦没者の追悼を行ったというが、その時の行事が「法楽おどり」の起源であるという。侍らしい軽装に太刀、早駆けの姿勢や跳ぶような動作、六字の名号に大幡など、現在でも続く伝統芸能である。	尾道市
③⑭	たわらぎまきじょうあと 俵崎城跡	未指定	村上海賊とともに毛利氏に従っていた生口氏の居館的役割を果たした海城である。当時尾道に次ぐ港町であった瀬戸田を管理していた生口氏によって築かれた。生口氏は、第一次木津川口合戦において村上三家とともに、毛利方の武将に名を連ねた芸予諸島の海の勢力。	尾道市

③⑤	こうじょう 向上寺三重塔	国宝	向上寺は生口氏が創建した寺院であり、室町時代初期建立の三重塔は多島美と調和した美しい景観を形成している。	尾道市
③⑥	ひょうたん 瓢箪島	国登録記念物 (名勝地)	村上海賊がかつて闊歩した島々の景観を代表する景勝地。瓢箪のような形から名前がつけられた。大三島と生口島間にあり、両島の神が島に綱をかけて引き合ったため、島の中央がくびれてしまったというユニークな伝説がある。	今治市・尾道市
③⑦	なみわけかんのん 光明寺の浪分観音	国重文	村上海賊の武将、島居資長 <small>しまずいすけなが</small> が寄進したもので、水軍の海難を防ぐ信仰として、浪分観音の異名がある。村上海賊と港町尾道の関係がうかがえる資料。	尾道市
③⑧	鳴滝山城跡	市史跡	鳴滝山城は、港町尾道の玄関口に位置し、城主宮地氏は尾道の海運を監視する役割を担ったが、鳴滝山城はその後攻め落とされ、城主宮地氏は因島村上氏を頼り、因島に移った。その後、村上氏の家老として、港町尾道の海運力を水軍の交易力に生かし尾道と水軍をつなぐ役割を果たした。	尾道市
③⑨	浄土寺宝篋印塔	国重文	村上海賊が史料上に登場する南北朝時代の宝篋印塔。「越智式」と呼ばれる芸予諸島から今治平野に見られるタイプで、村上海賊時代に発展を遂げる島々を介した南北の交流の礎とも言える石造物文化。それを示す尾道側の代表的事例である。	尾道市
④⑩	ももしま 百島茶臼山城跡	未指定	1504年、因島村上氏の村上喜兵衛義高 <small>きへえよしたか</small> が百島に築いた城。百島は、尾道と鞆の浦のほぼ中間にあり、山陽側の航路の要衝として重要な位置にある。	尾道市
④⑪	ほうらく 法楽焼	未指定	尾道市から今治市にかけて食される伝統料理。起源は定かではないが、法楽焼は、村上海賊の武器「ほうろく」にちなんだ料理で、戦勝の祝いに食べたとも伝わる。	今治市・尾道市

④②	水軍鍋	未指定	尾道市から今治市にかけて食される伝統料理。起源は定かではないが、水軍鍋は芸予諸島で獲れた海の幸を鍋にしたもので、海賊たちが新鮮な魚介類を船の上で豪快に食していたことに由来するという。	今治市・尾道市
④③	<small>こみなとじょうあと じょうけい</small> 小湊城跡と城慶寺	未指定	来島海峡に面した丘陵に築かれた村上海賊の城郭。関ヶ原合戦後も、藤堂高虎が繋ぎの城として重要視したとされる。城慶寺はその城域にあり、来島村上氏ゆかりの寺と伝わる。	今治市

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧

①大三島



③甘崎城跡



②-1 大山祇神社の文化財



②-2 大山祇神社法楽連歌



海に向かって立ち並ぶ係留用の柱穴跡

構成文化財の写真一覧

④伝村上吉継墓と明光寺



⑤伝村上雅房墓と禅興寺



⑥能島城跡



⑦見近島

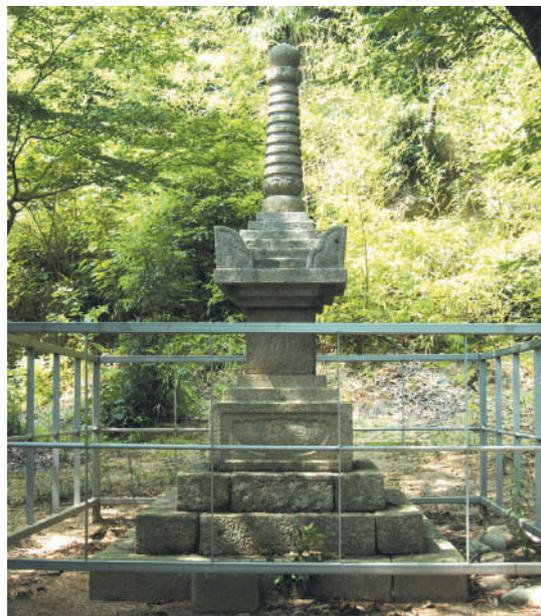


構成文化財の写真一覧

⑧能島村上家伝来資料群



⑩友浦善福寺宝篋印塔および周辺の文化財



⑨幸賀屋敷跡および周辺の村上海賊関連遺跡群



⑪八幡山



構成文化財の写真一覧

⑫ 伝村上義弘墓と高龍寺



⑬ 武志（務司）城跡と中渡（中途）城跡



⑭ 来島城跡



構成文化財の写真一覧

⑮波止浜



⑰別宮大山祇神社



⑯大濱八幡大神社



⑱光林寺文書



構成文化財の写真一覧

⑱国分山城



㉒乃万地域の石塔群



㉑志島ヶ原



㉑今治城跡



㉓怪島城跡



構成文化財の写真一覧

⑳ 因島村上家伝来資料群



㉑ 青陰城跡



㉒ 長崎城跡



㉓ 因島村上氏一族の墓地



㉔ 白滝山（五百羅漢像）



㉕ 青木城跡



構成文化財の写真一覧

③〇地蔵鼻（鼻の地蔵）と美可崎城跡



③〇余崎城跡



船隠し

③〇岡島城跡



③〇棕浦の法楽おどり



構成文化財の写真一覧

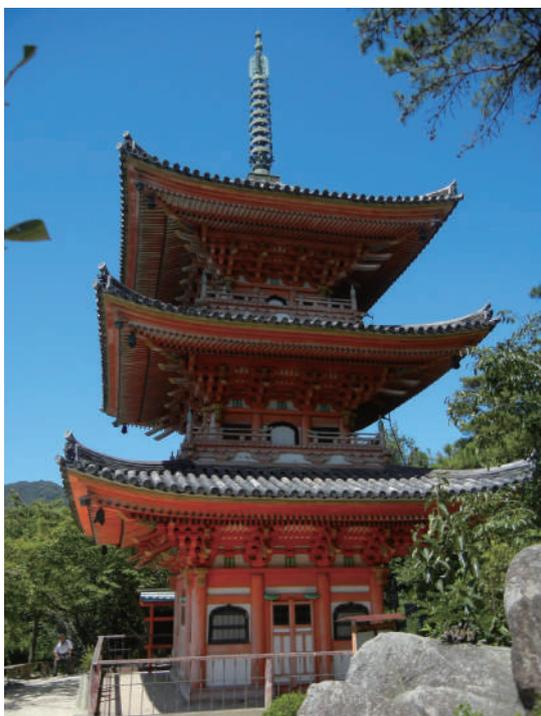
③④ 俵崎城跡



③⑦ 光明寺の浪分観音



③⑤ 向上寺三重塔



③⑧ 鳴滝山城跡



③⑥ 瓢箪島



構成文化財の写真一覧

③⑨ 浄土寺宝篋印塔



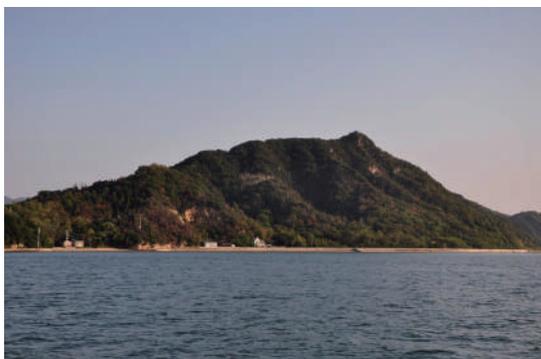
④① 法楽焼



④② 水軍鍋



④④ 百島茶臼山城跡



④③ 小湊城跡と城慶寺



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
36	“日本最大の海賊”の本拠地：芸予諸島 —よみがえる村上海賊“Murakami KAIZOKU”の記憶—

(1) 将来像 (ビジョン)

○概況

愛媛県今治市と広島県尾道市の間に広がる芸予諸島は、海外の大手メディアからも賞賛される風光明媚な瀬戸内海に位置し、世界中のサイクリストを魅了する「サイクリストの聖地」瀬戸内しまなみ海道を有する。戦国時代にこの地に本拠を構え、「日本最大の海賊」と賞された村上海賊は、理不尽に略奪を繰り返す西洋のパイレーツとは異なり、掟に従って海の平和を守ってきた。村上海賊が育んだ日本固有の海の文化は、世界でも類を見ない海事産業にもつながっている。多島美に象徴されるしまなみの景観とともに、戦国の時代から継承される村上海賊の歴史文化や精神性は、国内外からの来訪者を魅了してやまない唯一無二の地域資源である。

○地域外での認知

日本遺産認定以降、積極的な情報発信、普及啓発により国内のメディアなどで村上海賊が取り上げられるようになった。「水軍」としての役割にとどまらず、商人や文化人などさまざまな顔を持っていたというコンセプトを明確にし、日本の海賊と言えば“村上海賊”と言われるよう、そしてそれが瀬戸内海や芸予諸島で活躍していたことが認知されるよう、さらに情報発信を強化することで地域への来訪につなげていく。

国外へのアプローチも強化していく。マーケティング等の調査によりターゲットより明確化し、西洋のパイレーツとは異なる KAIZOKU という日本固有の海賊文化を世界に発信する。NINJA や SAMURAI と並ぶ KAIZOKU という日本固有の海賊文化で世界的な MurakamiKAIZOKU のブランドを確立させ、日本よりはるかに大きなマーケットであるインバウンドにおいて、村上海賊の存在感をあげ、外資の引き込みを狙う。単に海賊がいた事実を伝えるのではなく、現代の日本につながる海賊の精神性や日本人が大切にしてきた心を海外の人に理解してもらい、またこの地域を訪れたい、村上海賊のストーリーをほかの人に伝えたいという思いを引き起こさせる。

○地域内での認知

地域内においてはさらなる村上海賊の調査研究と普及啓発を図る。小中学生などの若い年代に地域の海賊文化に触れてもらうことで、子どもたちの探究心を刺激するとともに、将来的に地域の文化遺産の伝承者となってもらうことを目指す。村上海賊への愛着醸成により、進学・就職等で域外へ出たあとも、自らがその魅力の発信者になってもらう。それにより、海の文化は今後も継承されていき、地域の宝が後世にも良好な状態で残っていく。村上海賊の歴史は地域の主要産業のひとつである海事産業にもつながっており、その伝承

は将来の地域産業の担い手の確保にもつながるものである。

若年層以外にも海の文化を広めることにより、地域住民の心の豊かさにつなげる。地域に誇りを持つことで、生活のあらゆる場面において、活気が生まれ、単に経済価値だけでははかれないところの豊かさの醸成を目指す。アジアまで広く交易をして村上海賊が関係しているとされる当地域発祥の柑橘類や、村上海賊が警固した京都の東寺に献上した塩など、海賊ゆかりの食文化も地域住民に広く普及させ、郷土の誇りと活性化に繋げる。

○民間事業者との関わり

ポストコロナを見据えた文化観光を推進する。世界有数のサイクリングロード、風光明媚な瀬戸内の景観との掛け合わせや、日本遺産「村上海賊」構成文化財の魅力のさらなる掘り起こしと周辺環境の整備により、地域内外の観光事業者による村上海賊関連の事業創出の可能性を高める。地域住民も積極的に関心を持ち、地域住民、事業者、行政それぞれが村上海賊という共通の地域資源を活用して、地域一体となって来訪者増加、来訪満足度向上を目指す。移動手段として当地域ならではの船や、環境負荷の少ないサイクリングやトレッキング等を活用することにより、CO2の排出の抑制、健康増進などSDGsに掲げられる社会問題の解決に、観光を通じて貢献する。

（地域産業との融合）

文化観光の推進とともに、村上海賊のブランドと地域のあらゆる産業の融合をすすめる。全国的な知名度を誇る今治タオルや、村上海賊の歴史がつなぐ海事産業、八朔・レモンなど生産量全国レベルの柑橘など、民間事業者等が自ら主導して村上海賊を活用した体験や関連商品を開発し、村上海賊を核として地域経済を循環させ、産業の活性化を進める。

○海賊を通じた他地域とのとの交流

かつて海賊が活躍していた日本の他地域とも交流をすすめる。相互に海賊の研究を行い、日本の海賊研究の機運を高めるとともに、調査をさらにすすめその魅力を掘り起こしていく。情報発信においても連携し、日本全体で固有の海賊文化を盛り上げ、世界へも発信していく。

(2) 地域活性化計画における目標

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-A：村上海賊ミュージアム、因島水軍城の来訪者数（単位：人）						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	106,463	55,301	集計中	110,000	114,250	118,500
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		村上海賊の歴史的資料を展示しており、そのストーリーに直接的に触れることができる施設の来訪者数を目標値とする。数値は各施設の来館者数の合計を算出する。コロナ禍前の2019年度の4%を毎年の伸び数に設定する。				

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-B：潮流体験及び上陸ツアー参加者数（単位：人）						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	24,025人	22,026人	集計中	23,000人	24,000人	25,000人
目標値の設定の考え方及び把握方法		村上海賊の活躍した戦国時代と変わらない潮流を体験することができる能島潮流体験及び上陸ツアーの参加者数を目標値に設定する。				

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②-A：児童、生徒、学生が日本遺産「村上海賊」を誇りに思う割合（単位：%）						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	—	—	—	85%	88%	91%
目標値の設定の考え方及び把握方法		各イベント等において実施したアンケート調査により日本遺産「村上海賊」を誇りに思う割合を算出する。出前授業、文化財愛護少年団、尾道市立大学文化財学、日本遺産構成文化財巡り、PRブース等でアンケートを実施。				

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：村上海賊ミュージアム・因島水軍城での村上海賊関連グッズの売り上げ (単位：千円)						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	5,971千円	3,368千円	集計中	4,500千円	5,000千円	5,500千円
目標値の設定の考え方 及び把握方法	村上海賊ミュージアム・因島水軍城の物産コーナーにおける村上海賊関連商品の売り上げを、経済効果の一つの指標とする。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：村上海賊のロゴマーク使用にかかる寄付金額 (単位：千円)						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	-	-	25	50	75	100
目標値の設定の考え方 及び把握方法	村上海賊のロゴマークを使用して商品を売り上げた場合の売り上げの一部(5%)の寄付金額。毎年2万5,000円の寄附金増加を見込む。(毎年ロゴマーク商品売上50万円増加見込み)					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：地域の観光入込客数 (単位：千人)						
年度	実績			目標		
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
数値	9,580	6,090	集計中	8,217	8,378	8,541
目標値の設定の考え方 及び把握方法	地域へ広く経済効果が波及していることの指標として地域への観光入り込み客数を目標値として設定する。 尾道：毎年141千人の増加(尾道市総合計画 R6目標5,774千人) 今治：今治市観光振興計画の目標数値					

(3) 地域活性化のための取組の概要

●海外への情報発信の強化

これまでの地道な情報発信、普及啓発活動により国内での「村上海賊」の認知度は少しずつ上がってきているが、海外においてはまだまだ認知度が低いのが現状である。その原因としては、ターゲット選定やインバウンドマーケティング調査などの海外に向けた戦略的なアプローチの不足が要因としてあげられる。今後は JNTO や DMO と連携、また、インバウンド誘客の専門人材等のアドバイスも活用し戦略的なインバウンドへのアプローチを行っていく。国・地域及び年齢層に適した SNS 等のチャネルを利用して新しい情報を継続的に発信するとともに、多言語整備されている HP も活用し、村上海賊の歴史や構成文化財、歴史が形成した景観への理解を深め、来訪のきっかけを作る。日本が世界に誇るアニメ文化とも融合させ、村上海賊のキャラクター等を活用した PR も行う。海外の博物館等とも連携し、村上海賊の資料の相互展示などを行い、日本の歴史文化に興味が高い層へもアプローチを行う。訪日外国人が実際に地域に訪れた際に、西洋のパイレーツと異なる KAIZOKU の概念を理解してもらえよう、多言語解説をより充実させ、外国人が満足できるガイド人材の育成にも努める。

●「海賊」のネットワークを活かした研究の推進と他地域との相互交流の促進

日本遺産認定後 6 年間で構築された「海賊」を通じた横のネットワークを更に拡充し、日本における海賊文化の研究をさらにすすめる。日本各地で活躍した他の海の勢力の並行研究により、サブストーリーの磨き上げを行うと同時に、「産業」や「歴史」、「文化」、「食」等のキーワードを絡め、構成文化財について新たな魅力の掘り起こしを行い、地域資源化につなげる。令和 2 年度に開催された日本遺産フェスティバル in 今治では、日本独自の海賊文化について議論する日本海賊会議が開催され、全国の海賊のエキスパートが今治に集結し、海賊を通じた横のつながりが生まれた。今後も、各地域と連携して日本固有の海賊文化の普及を図る。大分県玖珠町は村上海賊三家のうち来島村上家と関係が深く、日本遺産フェスティバルを契機につながりが深くなった地域のひとつであり、地域の小学生の相互交流などを通じて相乗的に地域 PR につなげていきたい。

●歴史文化資源と自然、スポーツを組み合わせた観光振興を推進

国土交通省よりナショナルサイクルルートに認定されたサイクリストの聖地「瀬戸内しまなみ海道」の特性を十分活用し、サイクリング目的の観光客をターゲットに $+ \alpha$ の海賊スポットの提案を行い、サイクリング観光客の裾野を広げる。また、今後はサイクリングのみならず、日本遺産「村上海賊」の歴史文化資源と深く結びついている自然環境を活かしたスポーツツーリズムの推進や、構成文化財や観光施設を巡る滞在型コンテンツの創設、広域観光周遊ルートの形成によりスポーツ・文化・観光の交流人口の拡大を図り、滞在時間の延長、観光消費額の増加に繋げる。さらに、既存事業者と連携し、キャンプや釣りなどのマリンアクティビティと海賊の体験を融合させ新たなコンテンツの開発を目指す。民間主導の自走型体験コンテンツを一つでも多く造成し、持続可能な体制を構築する。VR 体験等も導入しリアルな海賊体験ができる環境を整備するとともに、海賊と巡る謎解きオンラインツアーを実施し、新たな観光スタイルにより、さまざまな村上海賊の楽しみ方

を提供する。これまでの取り組みにおいて、スポーツ庁、文化庁、観光庁よりスポーツ文化ツーリズムアワード2021において「文化ツーリズム賞」を受賞し、評価を得ているが、今後も新たな取り組みを行っていく。

●村上海賊と地場産業との融合

当地域は風光明媚な景観、瀬戸内の海の幸をはじめとした豊かな食文化を有し、村上海賊の歴史が紡いだ造船などの海事産業が栄え、今治タオル等の地場産業も盛んである。また、アジアまで広く交易をしていた村上海賊が持ち帰った果実や苗が交雑して生まれたともいわれる八朔や安政柑などがあり、全国有数の柑橘の産地となっている。今治市には元日本代表監督岡田オーナー率いるサッカーチーム「FC 今治」が存在し、エンブレムは海賊や航海をコンセプトとしたチームデザインを行っている。これらのように多彩にあふれる地域資源を、村上海賊とかけあわせ新たなコラボ商品の開発や取り組みを実施し、地域産業のさらなる活性化に日本遺産を通じて貢献していく。民間団体等が村上海賊を活用した商品開発を行う際は積極的な支援を行う。

●村上海賊の海の文化の地域内外への浸透

さまざまな地域団体や教育機関などと連携して、市民へ村上海賊の普及啓発を行い、地域住民が「村上海賊」について学び、体験し、村上海賊への正しい理解と愛着を持ち、自ら情報発信主体となることで、これからの SNS 時代の情報発信のけん引役となってもらうことを目指す。毎年全国各地から学生が集まってくる大学等において、村上海賊について学んでもらう機会を提供し、継続して村上海賊の普及活動を行うとともに、学生たちの新鮮な視線も積極的に取り入れ、さまざまな方向から村上海賊の情報発信を行う。また、オンライン等で村上海賊について学んだり体験したりできるコンテンツを開発し、幅広い層、世代に村上海賊について知ってもらえるチャンネルを構築する。進化する SNS を積極的に活用し、継続的な情報発信体制を敷き、国内外問わずインフルエンサーの活用も検討する。

(4) 実施体制

・協議会の名称

日本遺産村上海賊魅力発信推進協議会

・構成団体

今治市・尾道市文化財保護委員会、今治商工会議所、越智商工会議所、しまなみ商工会、公益財団法人今治地方観光協会、尾道商工会議所、因島商工会議所、尾道しまなみ商工会、(一社)尾道観光協会、(一社)因島観光協会、(一社)しまなみジャパン、今治市(産業部、教育委員会)尾道市(企画財政部)

・その他関係民間事業者等

瀬戸内 DMO、愛媛版 DMO、株式会社瀬戸内しまなみリーディング、WAKKA、株式会社しまなみ、村上海賊因島振興協議会、史跡能島城跡調査整備検討委員会 等

【戦略立案】

(国、県との連携、他地域との連携、他 DMO との連携、行政内他部署との連携)
事務局 (今治市・尾道市)

【ブランド磨き上げ】

(ブランド作り)

事務局 (今治市・尾道市)、(一社) しまなみジャパン

【インバウンドアプローチ】

(JNTO 等との連携、海外情報発信)

事務局 (今治市・尾道市)、(一社) しまなみジャパン

【情報発信】

(WEB サイト、SNS、パンフレット作成、メディア対応)

事務局 (今治市・尾道市)、尾道観光協会、因島観光協会、今治地方観光協会、今治地方観光協会、(一社) しまなみジャパン

【商品開発】

(グッズ、飲食物、旅行商品、オンラインコンテンツ、体験コンテンツ等の開発)

(一社) しまなみジャパン、因島観光協会、尾道商工会議所、因島商工会議所、尾道しまなみ商工会、今治商工会議所、越智商工会議所、しまなみ商工会、

【保全】

(文化資源保存・整備)

今治市文化財保護審議会、史跡能島城跡調査整備検討委員会、尾道市文化財保護委員会

[人材育成・確保の方針]

小学校における出前講座を実施し、地域の歴史に興味をもつ人材を掘り起こす。大学における文化財学などの講義の実施により域外からの流入者へも村上海賊の魅力発信を行い、卒業後の地域定着を図る。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

協議会は今治市・尾道市のふるさと納税からの充当等を活用した負担金によって運営されており、当面は負担金額を維持しながら活動を継続する。

日本遺産の魅力を国内外に情報発信し、構成団体や民間事業者による関連グッズの発売や旅行商品の造成など、日本遺産「村上海賊」ブランドを活かした、商品開発を積極的に支援する。新型コロナウイルス感染症により移動や参加人数に制限がある中で、将来的にはインバウンドにつなげていくが、まずはしまなみ海道沿線、中・四国地域等をターゲットに、身近なモノ、コト、シヨク(食)に、日本遺産「村上海賊」のストーリーを結びつけた、短い時間、少人数で新しい経験や食を楽しむことができるコンテンツを開発する。

日本遺産「村上海賊」のロゴマークを使用した商品の収益の5%を寄付してもらおう仕組み

を周知・活用し、協議会への運営資金の補填を目指す。日本遺産のために活用するふるさと納税の寄附も積極的に募り、財源確保のひとつとする。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

構成文化財には国宝や国の史跡、重要文化財が多く含まれており、尾道市では尾道市歴史文化基本構想・文化財保存活用計画、尾道市歴史的風致維持向上計画に沿って、所有者、国、県等と協議しながら計画的に保存修理や総合防災事業を実施し、文化財の保存継承に取り組んでいる。

今治市では市民やさまざまな分野の学識経験者で構成する「史跡能島城跡調査・整備検討委員会」を設置し検討を重ね、令和元年度に「史跡能島城跡保存活用計画」、令和2年度に「史跡能島城跡整備基本計画」を策定。今後も村上海賊の本拠地である能島城跡とその周辺の村上海賊関連遺跡の保存整備を進めるとともに、能島城跡上陸ツアーなどの円滑な催行を行えるようにする。整備により村上海賊のストーリーを体験する人が増え、周遊観光などにより地域経済への貢献が期待される。また、文化財について講座等（文化財講座、文化遺産パートナー養成講座、文化財愛護少年団、学校等での授業、文化財巡り）を幅広い世代、市内外に向けて実施することにより、正しい理解の促進と文化財の愛護精神の醸成を図り、地域外からの来訪者に対するおもてなし精神が地域住民の間で生まれ、ますます旅行商品の造成等につながる。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	DMO 及び観光協会等との連携		
概要	しまなみ地域の DMO である（一社）しまなみジャパンや観光協会等と村上海賊を活用した収益事業・インバウンド誘客を実施する組織整備を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	各団体との協議の実施	協議会の総会などにおいて、各団体が集まり村上海賊を活用した収益化事業について協議する。	DMO、観光協会等、協議会
②	人材の確保	収益事業・インバウンド誘客を実施するにあたって、必要となる人材・専門家を探し出し、事業に参画してもらったり、アドバイスをもらったりする。	DMO、観光協会等、協議会
③	SNS 等の相互リンク	各団体が管理する WEB サイトや SNS 等で相互リンクを行い、情報発信の相乗効果を狙う。	DMO、観光協会等、協議会
④	今治市ブランド戦略会議への参加	今治市のブランド向上を目的として地域の事業者などがあつまり、意見交換をしよう今治市ブランド戦略会議に参加し、市の他ブランドの向上とあわせて村上海賊のブランド力を向上させる。	地域事業者、今治市
⑤	村上海賊因島振興協議会との連携	村上海賊の本拠地因島にある地域振興団体と連携し、「海賊焼き」、オリジナルメニュー等の食文化の開発、村上海賊城跡トレッキングルートの開発などを行う。	村上海賊因島振興協議会、協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	日本遺産ロゴマーク及び村上海賊ロゴマークを使用して実施した事業数+協議会が後援した事業数	16 件（尾道 10 今治 6）	
2020 年		9 件（尾道 3 今治 6）	
2021 年		7 件（尾道 3 今治 4）	
2022 年	日本遺産ロゴマーク及び村上海賊ロゴマークを使用して実施した事業数+協議会が後援した事業数	10 件	
2023 年	日本遺産ロゴマーク及び村上海賊ロゴマークを使用して実施した事業数+協議会が後援した事業数	13 件	
2024 年	日本遺産ロゴマーク及び村上海賊ロゴマークを使用して実施した事業数+協議会が後援した事業数	16 件	
事業費	2022 年 : 0 円	2023 年 : 0 円	2024 年 : 0 円

継続に向けた
事業設計

各種団体と密に連絡を取り合い、地域一帯の連携を図る。実績を明確化するため、日本遺産ロゴマーク、村上海賊ロゴマークの使用について周知し、実施事業数を正確に記録する。

(事業番号 1-B)

事業名	日本遺産魅力発信推進事業のための財源確保		
概要	村上海賊の魅力発信にかかる行政及び協議会の財源を確保する仕組みを作る。さまざまな手法により財源を確保し、円滑な事業実施体制を構築する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	村上海賊魅力発信推進事業のためのふるさと納税の促進	村上海賊関連の返礼品が受けられるふるさと納税の返礼品の開発やそのPRを積極的に行う。	行政、協議会
②	村上海賊ロゴマークを活用した寄附金	協議会で作成した村上海賊のロゴマークを活用して開発した商品の寄附金をいただく仕組みのプロモーションを行う。	行政、協議会
③	クラウドファンディング等の活用	クラウドファンディング等の新たな財源確保手段を検討し、協議会の自走につなげる。	協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	日本遺産のためのふるさと納税額+村上海賊寄附金額		21,233千円
2020年			29,628千円
2021年			集計中
2022年	日本遺産のためのふるさと納税額+村上海賊寄附金額		30,000千円
2023年	日本遺産のためのふるさと納税額+村上海賊寄附金額		31,000千円
2024年	日本遺産のためのふるさと納税額+村上海賊寄附金額		32,000千円
事業費	2022年：0円	2023年：0円	2024年：0円
継続に向けた事業設計	各WEBサイト、SNSにおいて、ふるさと納税及び村上海賊寄附金について周知する。寄附する際の事業者へのメリットを明確化する。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

事業名	行政計画への位置づけ		
概要	上位計画に位置付けることにより、長期的な日本遺産の連携が出来、予算の獲得など安定的な事業継続が可能となる。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	尾道市歴史的風致維持向上計画第2期計画への位置づけ	令和4年度からの10か年の第2期計画に位置付けており、歴史により形成された様々な時代の文化財が重なり合う特色と魅力を活かした地域づくりを行い、文化財や歴史的風致を活かした観光振興を行う。	尾道市
②	尾道市総合計画後期基本計画への位置づけ	計画期間を令和4年度から8年度とする尾道市総合計画後期基本計画に、日本遺産は地域資源、情報発信の点から重要と位置付けることにより、安定的、継続的な事業実施が可能となった。	尾道市
③	尾道教育総合推進計画への位置づけ	計画期間を令和4年度から8年度とする尾道教育総合計画に、日本遺産は文化財の活用と愛護精神等の育成の点から重要と位置付けることにより、安定的、継続的な事業実施が可能となった。	尾道市
④	第2期尾道市まち・ひと・しごと創成総合戦略への位置づけ	基本目標である「観光産業の収益性が高まっている」の施策「観光プロダクツの多様化」の具体的な取り組みとして日本遺産の活用を掲げている。	尾道市
⑤	観光統計調査	観光客数、観光消費額等を調査し、観光戦略立案の参考とする。	尾道市
⑥	第2次今治市総合計画後期基本計画への位置づけ(2021-2025)	第2次今治市総合計画後期基本計画(2021-2025)において、日本遺産「村上海賊」を文化財として保存・活用し、また観光文化資源として活用するとしている。	今治市
⑦	今治市観光振興計画への位置づけ	今治市観光振興計画(2021-2030)のアクションプランにおいて、村上海賊の魅力的なコンテンツ開発、日本遺産をテーマにしたイベントの実施、出前講座等を通じた普及啓発を行うと明記されている。	今治市
⑧	史跡能島城跡保存活用計画	国史跡である能島城跡の本質的価値を明確にするとともに、今後の保存、活用、整備等に向けての基本方針を示した計画。各補助金等を活用し	今治市

		ながら、史跡能島城跡を的確に保存・管理していく。	
⑨	史跡能島城跡整備基本計画	計画において、令和3年度から令和12年度にわたって、村上海賊の居城能島城跡の整備活用が計画されている。	今治市
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	日本遺産との関係性を明確化した行政計画の数 (総数)		6件
2020年			7件
2021年			10件
2022年	日本遺産との関係性を明確化した行政計画の数 (総数)		11件
2023年	日本遺産との関係性を明確化した行政計画の数 (総数)		12件
2024年	日本遺産との関係性を明確化した行政計画の数 (総数)		13件
事業費	2022年：0円	2023年：0円	2024年：0円
継続に向けた事業設計	随時行政計画と日本遺産の関係を明確化し更新を行う。積極的に行政計画に位置づけることで、各部署が横断的に日本遺産の情報発信に取り組む。		

(事業番号 2-B)

事業名	村上海賊マーケティング調査の実施		
概要	村上海賊の認知度、ターゲット層などを改めて分析し、時代にあった効果的な情報発信戦略、消費喚起手法を立案する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	統一アンケートの実施	協議会内で統一のアンケートフォームを作成し、各イベント等でデータを収集する。収集したデータを分析し、PDCAを回す。	行政、協議会
①	村上海賊に関心が高い層の分析	村上海賊に関心が高い層を分析し、当該層に最も効果的なアプローチ手法を実行する。各SNSのエンゲージメントも注視する。	協議会 地域事業者 調査会社
②	インバウンドターゲットの実施	専門家等の意見を取り入れながら海外向けアプローチにあたってのターゲットの国と地域を設定する。設定した国・地域に対してどのようなアプローチを行うのか分析する。	協議会 地域事業者 調査会社
③	村上海賊関連消費動向調査	村上海賊に関連した商品の売り上げや消費動向を調査・分析する。調査結果をもとにさらなる販売促進や新たなアプローチ方法の模索を行う。	協議会 地域事業者 調査会社
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	村上海賊認知度アンケートの実施回数		-
2020年			-
2021年			-
2022年	村上海賊認知度アンケートの実施回数		5回
2023年	村上海賊認知度アンケートの実施回数		5回
2024年	村上海賊認知度アンケートの実施回数		5回
事業費	2022年：500千円		2023年：0円 2024年：0円
継続に向けた事業設計	協議会で統一したアンケートフォームを作成し、年最低5回のアンケートを各種イベント等で実施し、データの分析を行う。SNS等のエンゲージメントも分析し、マーケティングに役立てる。		

(7) - 3 人材育成

(事業番号3-A)

事業名	日本遺産、村上海賊のガイドができる人材の養成		
概要	<p>日本遺産のガイドや調査研究等を積極的に行う人材育成を図る。講座では歴史だけではなく、SNSを使った情報発信の方法なども取り上げ、積極的な「日本遺産村上海賊」の情報発信につなげる。</p> <p>観光ガイド付きの個人ツアー等においてHP等からの申し込みする際に、文化遺産パートナー認定者などガイドのグレードを可視化し、申込者の利便性の向上を図るとともに、ガイドの意識向上によるレベルアップを図る。</p>		
	取組名	取組内容	実施主体
①	文化遺産パートナー養成事業	日本遺産のガイドや調査研究等を積極的に行う文化遺産パートナーを養成する講習会やワークショップを開催し、より効果的な日本遺産の活用と人材育成を図る。	観光協会、協議会
②	小学校出前講座	村上海賊が遺した「海の文化」を次世代へ継承するため、今治市内小学校にて出前講座を行い、村上海賊の普及啓発活動を行う。将来的に市外・圏外へ出て、地元の家賊の歴史をそこで広めてもらう。	小学校、協議会
③	村上海賊ツアーガイドの養成	村上海賊のストーリーや構成文化財を熟知し、その知識をもとに村上海賊クルーズや村上海賊城跡ウォーキングでガイドを行うツアーガイドを、実地ツアーをもとに養成する。また、観光ガイド付きの個人ツアー等で、HP等からの申請時に、文化遺産パートナー認定者など、ガイドのグレードを可視化する。	観光協会等、協議会
④	文化財愛護少年団事業	小中学生を対象に、村上海賊をテーマとした体験を交えた学習会を実施する。	協議会 (尾道市)
⑤	尾道市立大学文化財学講義	尾道大学の文化財学の中で日本遺産に関する講義や構成文化財を巡るフィールドワークを実施し、地域に愛着、創作活動への影響、卒業後も尾道に定住すること等を促進する。	尾道市
⑥	村上海賊ミュージアムパートナー養成	村上海賊ミュージアムの運営等を手助けするミュージアムパートナーに村上海賊の歴史をさらに学んでもらうよう育成プログラムを強化する。ミュージアムパートナーは、民間事業者が実施する能島上陸ツアーでガイドを行い、ツアー	村上海賊ミュージアム

		参加者の満足度向上につなげる。	
⑦	SNS 情報発信講座の実施	SNS 情報発信の専門家等を招聘し、地域事業を含めて情報発信の講座などを実施する。	専門家、事業者、協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	地域民間プレイヤー数		328人
2020年	(文化遺産パートナー・日本遺産パートナー登録者数)		328人
2021年			395人
2022年	地域民間プレイヤー数 (文化遺産パートナー・日本遺産パートナー登録者数)		415人
2023年	地域民間プレイヤー数 (文化遺産パートナー・日本遺産パートナー登録者数)		435人
2024年	地域民間プレイヤー数 (文化遺産パートナー・日本遺産パートナー登録者数)		455人
事業費	2022年： 500千円 2023年： 500千円 2024年：500千円		
継続に向けた事業設計	各講座をプログラム化し、毎年改善を加えながら継続的に実施する。		

(事業番号3-B)

事業名	日本遺産活用事業者支援		
概要	村上海賊のブランドを活用した事業者へのビジネス創出支援		
	取組名	取組内容	実施主体
①	村上海賊を活用した地域事業者を集めての意見交換会の実施	村上海賊を活用した事業者に集ってもらい、日本遺産活用の現状や補助制度の紹介、意見交換などを行う。	事業者、協議会
②	村上海賊を活用した商品開発への援助	村上海賊を活用した商品等を開発する際に、村上海賊の歴史的事実や概要説明などを行い開発の手助けを行う。	事業者、協議会
③	村上海賊問合せ相談窓口開設	一般市民や事業者が問い合わせをしやすい環境をつくり、村上海賊を活用した地域活性化の一助とする。	村上海賊ミュージアム、協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	村上海賊関連ビジネス創出数(年間)		- (データ無し)
2020年			- (データ無し)
2021年			- (データ無し)
2022年	村上海賊関連ビジネス創出数(年間)		5件
2023年	村上海賊関連ビジネス創出数(年間)		6件
2024年	村上海賊関連ビジネス創出数(年間)		7件
事業費	2022年: 100千円 2023年: 100千円 2024年: 100千円		
継続に向けた事業設計	最新の経済動向や文化庁等各省庁補助制度を把握し、村上海賊を活用したビジネスができるよう最適な環境を整備する。		

(7) - 4 整備

(事業番号4-A)

事業名	歴史的風致維持向上事業		
概要	歴史的風致向上計画に基づき、道路美装化事業、街並み形成事業補助等を実施し、日本遺産のストーリーを構成している魅力的な景観の形成と維持を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	文化財保存事業	重要文化財である建造物の保存・修理・総合防災事業を実施し、後世に貴重な文化財を伝承するとともに活用する。 また、保存修理に伴う調査結果や、保存修理中でなければ見ることが出来ない部分の見学会や、展覧会を実施し、記録集の作成や配布を行うことにより、市民への普及を図るとともに、コアな歴史ファンの来訪の増加につなげる。	尾道市
②	重要文化財木造千手観音立像美術工芸品保存活用整備事業	構成文化財である国重文「光明寺の浪分観音」を収蔵、展示する施設の改修工事を実施し、防犯錠を新設する。	光明寺 尾道市
③	夜間景観整備事業 (街なみ環境整備事業)	歴史的な背景を持つ街並みにふさわしい施設整備や、歴史的建築物のライトアップを実施することにより、回遊性の向上を図り、滞在時間の延長と観光消費額の増加を促進する。	尾道市
④	道路美装化事業 (街なみ環境整備事業)	歴史的な景観が残るしおまち商店街(尾道市瀬戸田町)と構成文化財である向上寺を中心としたエリアの道路を美装化し、回遊性の向上により、来訪者の増加を図る。	尾道市
⑤	眺望環境整備事業 (街なみ環境整備事業)	構成文化財である向上寺が立地する潮音山(尾道市瀬戸田町)の、眺望環境を楽しむための滞留スペースや案内看板を整備し、来訪者の増加を促す。	尾道市
⑥	観光案内設備改良事業 (街なみ環境整備事業)	劣化等により安全面の問題があるものや美観が損なわれているものの修復、改修、撤去を行い市民や観光客に適切な案内や説明を行う。	尾道市
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年			158.5m
2020年	瀬戸田歴史的風致地区の道路の美装化した距離		153m
2021年			201.5m
2022年	瀬戸田歴史的風致地区の道路の美装化した距離		最終目標 675m

2023年	瀬戸田歴史的風致地区の道路の美装化した距離	最終目標 675m
2024年	瀬戸田歴史的風致地区の道路の美装化した距離	最終目標 675m
事業費	2022年：200,000千円 2023年：75,000千円 2024年：86,300千円	
継続に向けた事業設計	令和4年度から令和13年度までの二期計画に、日本遺産構成遺産の保存活用や、環境整備、普及啓発事業を位置づけ、計画に沿って継続的に事業を実施する。	

(事業番号 4-B)

事業名	宿泊施設整備事業		
概要	2025年の大阪万博、瀬戸内芸術祭を契機に海から富裕層を呼び込むため、島しょ部に上質な宿泊施設を整備する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	シトラスパーク活用事業	生口島にある旧シトラスパークを活用し、レモン栽培、公園の整備、グランピング設営が予定されており、運営事業者を支援していく。	民間事業者、尾道市
②	上質な宿泊施設の開発促進事業	尾道市の上質な宿泊施設誘致の取り組みが評価され、観光庁の「上質な宿泊施設の開発促進事業」に係る自治体に選定されている。引き続き積極的な誘致に取り組んで行く。	民間事業者、尾道市
③	地域内宿泊施設における村上海賊 PR	グランピングやゲストハウスなど、多様な形態の宿泊事業者に向け村上海賊の PR を行い、旅行需要の喚起を行う。	宿泊事業者、協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	宿泊客数（今治市、尾道市）		948,339人
2020年			677,003人
2021年			集計中
2022年	宿泊客数（今治市、尾道市）		1,014,000人
2023年	宿泊客数（今治市、尾道市）		1,032,000人
2024年	宿泊客数（今治市、尾道市）		1,058,000人
事業費	2022年：0円	2023年：0千円	2024年：0千円
継続に向けた事業設計	行政側が庁内関係各課、国、県、DMO等と連絡調整を行うとともに、各機関と連携し速やかに行政上の課題が解決できるようサポートする。		

(事業番号 4-C)

事業名	村上海賊ゆかりの風景スポット整備		
概要	多島美で知られる風光明媚なしまなみ地域のなかで、SNS 拡散されるような村上海賊ゆかりの風景スポットを発掘し、観光誘客のために整備活用する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	史跡能島城跡保存整備事業	来訪者が安全に満足して歴史を体感できるように能島村上家が本拠とした能島城跡の整備を行う。	今治市
②	村上海賊歴史体験モデルルート作成	当地域の有力コンテンツであるサイクリングと融合させたモデルコースを考案し売り出す。また、戦略立案でターゲットした海外プロモーションの国・地域に対するモデルルートも作成。	今治市
③	村上海賊フォトスポット整備	日々拡大する SNS での口コミに対応するため、しまなみの風光明媚な景観を活かしたフォトスポットを設定する。能島城跡を眺められるビューポイントを設定し、多島美の優れた景観とともに村上海賊の歴史を学び実感できるように、周辺施設と連携する。	今治市
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	能島上陸ツアー・潮流体験参加者数		24,025 人
2020 年			22,026 人
2021 年			15,083 人
2022 年	能島上陸ツアー・潮流体験参加者数		23,000 人
2023 年	能島上陸ツアー・潮流体験参加者数		24,000 人
2024 年	能島上陸ツアー・潮流体験参加者数		25,000 人
事業費	2022 年 : 300 千円 2023 年 : 300 千円 2024 年 : 300 千円		
継続に向けた事業設計	村上海賊ゆかりのスポットを活用して事業を行う民間事業者等と連携し、風光明媚な景観をいかしたスポットを整備する。		

(事業番号 4-D)

事業名	村上海賊調査研究事業		
概要	村上海賊の史跡や文書等広く研究し、ストーリーの広がりやサブストーリーの抽出を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	村上海賊調査研究	毎年テーマごとに調査研究をし、関連文化財やエリアを拡大し、サブストーリーとして活用する。	協議会
②	日本遺産調査研究成果報告巡回展	①の研究成果の巡回展を、村上海賊ミュージアム、おのみち歴史博物館、因島水軍城で実施する。	協議会
③	村上海賊調査研究成果パンフレット作成	①の研究成果をパンフレットとしてまとめ、人材育成事業の資料や、イベント会場で村上海賊の新たな魅力を発信する媒体として活用する。	協議会
④	日本各地で活躍した海賊勢力の研究などサブストーリーの観光事業化	研究を他地域の海賊勢力まで広げ、研究成果をもとに紹介パンフレットの作成、WEB サイトでの情報発信や、ツアーの造成を行う。	民間事業者、協議会
⑤	研究成果の WEB での公開	地域に来訪しなくても村上海賊の研究成果をオンラインで見られる仕組みを構築する。	協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	巡回展来場者数		11,002 人
2020 年			14,360 人
2021 年			5,688 人
2022 年	巡回展来場者数		15,000 人
2023 年	巡回展来場者数		16,000 人
2024 年	巡回展来場者数		17,000 人
事業費	2022 年 : 500 千円 2023 年 : 500 千円 2024 年 : 500 千円		
継続に向けた事業設計	村上海賊の調査研究は協議会構成員である今治市・尾道市が継続的に実施し、展示や印刷等によって地域住民や観光客に広く公開する。		

(事業番号 4-E)

事業名	日本遺産ビジターセンター機能拡充事業		
概要	設置された日本遺産ビジターセンターの機能拡充を行い、より深い村上海賊の理解が得られるよう環境整備を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	体験コンテンツの充実	日本遺産ビジターセンターにおいて、VRなどの体験コンテンツを充実させ、来訪者がリアルな体験をとおりて村上海賊の理解が深められるようにする。	協議会
②	隣接施設との連携	日本遺産ビジターセンターと隣接する物産コーナー等の他施設と連携し、相互に誘客を図り村上海賊の理解を深めるとともに地域経済にも貢献する。	地域事業者、協議会
③	日本遺産ビジターセンターにおける解説展示の多言語化	日本遺産ビジターセンターにおいて、解説展示を多言語化することにより、海外からの観光客が村上海賊に親しむ機会を提供する。	協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	因島水軍城、村上海賊ミュージアム来館者数		106,463人
2020年			55,301人
2021年			集計中
2022年	因島水軍城、村上海賊ミュージアム来館者数		110,000人
2023年	因島水軍城、村上海賊ミュージアム来館者数		114,250人
2024年	因島水軍城、村上海賊ミュージアム来館者数		118,500人
事業費	2022年：500千円 2023年：500千円 2024年：500千円		
継続に向けた事業設計	ビジターセンターの展示内容の見直しを定期的に行い、また、来館者数の正確な把握により日本遺産関係のデータとして収集する。		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	「村上海賊」をテーマとした多様なツアーの実施と磨き上げ事業		
概要	「村上海賊」のストーリーをさまざまな形で体感できるツアーの実施と、開催数だけではなく、質のレベルアップを図る。DMO等と連携し村上海賊の体験ツアーを積極的に販売する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産村上海賊クルーズツアー	村上海賊の海城など多くの島を有する地域の特性をいかした日本遺産「村上海賊」構成文化財をめぐるクルーズツアーの実施と、磨き上げを実施する。	民間事業者 協議会
②	ツアーガイド養成	村上海賊のストーリーや構成文化財を熟知し、その知識をもとに村上海賊クルーズや村上海賊城跡ウォーキングでガイドを行うツアーガイドを、実地ツアーをもとに養成する。	民間事業者、 協議会
③	しまなみアートミュージアムオンラインツアー	村上海賊としまなみ地域のアートミュージアムを巡る謎解きオンラインツアーを実施し、オンライン上で村上海賊やしまなみのアートを体験できるようにする。謎解きをクリアした参加者には施設などで景品を渡し、リアルの誘客にもつなげる。	民間事業者、 協議会
④	地域地場産業とコラボした体験コンテンツの造成	地域の地場産業と村上海賊のつながりに注目した体験コンテンツを造成し、ツアーに組み込む。造成したツアーは、(一社)しまなみ日本の体験予約ページ等に掲載し、積極的に販売促進を行う。	民間事業者、 協議会
⑤	修学旅行誘致事業	コロナ禍で都市部からの修学旅行が増加しており、さらに受け入れを拡大するため、村上海賊の魅力なども紹介した修学旅行ガイドブックを作成し、旅行代理店等に売り込みを図る。	旅行会社、今 治市、協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年			24,025人
2020年	能島上陸ツアー・潮流体験参加者数		22,026人
2021年			15,083人
2022年	能島上陸ツアー・潮流体験参加者数		23,000人
2023年	能島上陸ツアー・潮流体験参加者数		24,000人
2024年	能島上陸ツアー・潮流体験参加者数		25,000人
事業費	2022年：10,000千円 2023年：500千円		2024年：500千円

継続に向けた
事業設計

村上海賊をテーマとしたツアーは観光協会等の民間事業者が実施し、内容の構成やツアーガイド育成については協議会が助言する等、連携をしながら磨き上げ、集客率、収益率を高めていく。

(事業番号5-B)

事業名	食文化魅力創出事業		
概要	しまなみエリアの村上海賊に関連する食材をテーマとして歴史的価値を発信するとともに、商品として活用していく。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	八朔加持力まつり	八朔発祥の寺である因島の浄土寺において、八朔・八朔産地の繁栄を願う法要を行うことにより、八朔の歴史を紹介するとともに、産地をPRする。	八朔まつり 実行委員会 JAひろしま 果実連
②	村上海賊ブランドとご当地グルメの融合	村上海賊と、八朔などの柑橘グルメや今治焼き鳥などのご当地グルメを融合させ、海賊をテーマとした新メニューの開発、磨き上げ、参加店舗の増加を図っていく。情報発信もあわせて強化する。	(一社)しまなみジャパン、 因島観光協会、 地域グルメ団体、 協議会
③	おてつたび	若者が柑橘農家を手伝いながら地域に長期滞在することで、労働力不足解消に寄与しながら、得た報酬を地域に落とす地域経済循環を構築するとともに、地域のファンとなりSNS等での地域の魅力の情報発信も行っていく。	JA 三原、JR 西日本、尾道市
④	SAVOR JAPAN	SAVOR JAPAN に認定された、せとうちの食の魅力を、新たな切り口から開発したメニューや加工品、イベント、様々なワークショップにより国内外からの来訪者に紹介する。	LOG、尾道市
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	海賊むすび提供店舗数		- (データ無し)
2020年			- (データ無し)
2021年			14店
2022年	海賊むすび提供店舗数		16店
2023年	海賊むすび提供店舗数		18店
2024年	海賊むすび提供店舗数		20店
事業費	2022年：0円	2023年：0円	2024年：0円
継続に向けた事業設計	観光事業者だけでなく、JA等とも連携を強化していく。		

(事業番号5-C)

事業名	サイクリング、マリンアクティビティと組み合わせた旅行商品の開発		
概要	世界的に有名なサイクリングコース「瀬戸内しまなみ海道」を活用した観光商品や、釣り・キャンプなどマリンアクティビティと組み合わせた体験コンテンツを開発する		
	取組名	取組内容	実施主体
①	サイクリング観光客への村上海賊誘客強化	しまなみ地域のレンタサイクルターミナルにおいて、サイクリング観光客へ村上海賊がかつて通行許可証として渡した「過所旗」等を模したグッズなどを配布しやサイクリング+αの村上海賊の観光誘客を図る。	(一社)しまなみジャパン、行政、協議会
②	マリンアクティビティ等との組み合わせ	釣りが盛んな当地域の特性をいかし、瀬戸内の海の幸で村上海賊ゆかりの料理を作る体験プログラムやキャンプイベントなどにおける村上海賊の武器ほうろく玉投げゲームなどを実施する。	民間事業者、(一社)しまなみジャパン、協議会
③	村上海賊の海城体験ツアー	現在は無人島となっている村上海賊の海城をサイクルシップなどで巡るクルーズツアーを実施。普段は行けない場所へいけるツアーとしてプレミアム感を出す。	民間事業者、(一社)しまなみジャパン、協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	レンタサイクル貸出数		149,365台
2020年			74,913台
2021年			55,091台
2022年	レンタサイクル貸出数		96,000台
2023年	レンタサイクル貸出数		120,000台
2024年	レンタサイクル貸出数		150,000台
事業費	2022年：100千円 2023年：100千円 2024年：100千円		
継続に向けた事業設計	行政観光部局、DMOとの密な連携により、それぞれが蓄積した観光ノウハウを最大限活用する。しまなみ地域のキラーコンテンツであるサイクリングを最大限活用する。		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	小中学生・高校生向け普及活動		
概要	地域の小中学生などを対象とした出前授業や体験プログラムの提供、高校生と連携したPR活動などを行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	児童生徒・高校生向けのパンフレットの増刷	村上海賊が遺した「海の文化」を次世代へ継承するため作成した、児童生徒・高校生向けのパンフレットの内容を更新しながら増刷する。	協議会
②	村上海賊キャラクターの活用	世界的に有名なアニメーション制作者に村上海賊のキャラクターをデザインしてもらい、各種媒体で使用する。	デザイナー、市、協議会、
③	小学校での出前講座の実施	小学生を対象に各学校において村上海賊の出前講座を実施し、地域の宝である村上海賊への愛着造成及び児童への歴史への探究心の掘り起こしを行う。	小学校、協議会
④	地元高校生と連携したPR活動	地元の高校生と連携して、高校生目線で村上海賊をPRする。高校生PRパンフレットの作成及び観光甲子園日本遺産部門応募支援などを行う。	高校生、協議会
⑤	地元ショッピングモールと連携した事業	地元ショッピングモールと連携し村上海賊のおでかけ講座を実施し、夏休みの自由研究などの手助けを行う。	地元ショッピングモール、協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年			-
2020年	出前講座における小学生の村上海賊の認知度		69%
2021年			55%
2022年	出前講座における小学生の村上海賊の認知度		65%
2023年	出前講座における小学生の村上海賊の認知度		70%
2024年	出前講座における小学生の村上海賊の認知度		75%
事業費	2022年：1,500千円 2023年：500千円 2024年：500千円		
継続に向けた事業設計	小学生向けの出前講座などを毎年行えるよう体系化し、継続して小中学生へ普及啓発を図る。都度アンケートを実施し、認知度などを調査する。		

(事業番号6-B)

事業名	市民向け村上海賊普及活動		
概要	地元ショッピングモールやスポーツチーム、高等教育機関など業種を問わず様々な地域事業者・団体と連携し、地域全体に村上海賊のさらなる普及を図る		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産調査研究成果報告巡回展	毎年テーマを決めて実施する村上海賊の研究成果の巡回展を、村上海賊ミュージアム、おのみち歴史博物館、因島水軍城で実施する。	協議会
②	地元ショッピングモールと連携したPR	地元ショッピングモールと連携してPRブースを出展し、村上海賊関連イベントを開催し幅広い世代に村上海賊の周知を図る	地元ショッピングモール、協議会
③	地域スポーツチームとの連携	地域で活動するスポーツチームと連携し、スポーツゲームなどの際に村上海賊をPRしたり、サポーター対象の村上海賊ツアーを実施したりする。	地元スポーツチーム、協議会
④	教育機関との連携	大学などの地域の高等教育機関において、毎年入学してくる学生に対して村上海賊のレクチャーを行う。また、情報発信などにおいても、大学生などから知恵をもらい効果的な情報発信手法を探る。	大学等、協議会
⑤	市民対象の出前講座の実施	一般市民を対象に村上海賊の出前講座を実施し、地域における村上海賊の認知度をさらに高めるとともに誇りに思ってもらう。	一般市民、協議会
⑥	オンラインでの村上海賊の解説配信	Youtube等の動画で出前講座の解説動画を配信し、広く村上海賊の魅力を発信する。多言語化も行い、国内外問わず、村上海賊について学んでもらう。	協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	地域内対象アンケートにおける村上海賊を誇りに思う割合		-
2020年			-
2021年			-
2022年	地域内対象アンケートにおける村上海賊を誇りに思う割合		80%
2023年	地域内対象アンケートにおける村上海賊を誇りに思う割合		85%
2024年	地域内対象アンケートにおける村上海賊を誇りに思う割合		90%
事業費	2022年：100千円	2023年：100千円	2024年：100千円

継続に向けた
事業設計

教育委員会や教育関連施設、民間事業者、市民団体等と連携し、将来的には協議会は講師の斡旋、資料提供を担い、各団体が事業を実施する等の役割分担をしながら継続する体制を目指す。

(事業番号6-C)

事業名	海賊を通じた他地域との交流事業の実施		
概要	日本各地で活躍していた海賊や海の勢力を通じた交流事業を実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	小学生交流事業	村上海賊来島村上家とつながりの深い大分県玖珠町と交流事業を実施する。愛媛県今治市と大分県玖珠町で交互に小学生を派遣し、村上海賊への理解を深める。	大分県玖珠町、協議会
②	他地域の博物館等における相互展示	各地の海賊に関する展示を行っている博物館等において、海賊を共通のコンセプトとした相互展示を行い、双方へ誘客を図る。	各博物館、村上海賊ミュージアム、協議会
③	日本各地の海賊の相互研究	日本各地で活躍していた海賊について相互に研究し、村上海賊についての調査研究成果や情報は他の海賊がいた地域にも情報提供するほか情報収集も行い、継続した交流事業を図る。	協議会、各市町
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	-		-
2020年			-
2021年			-
2022年	交流事業におけるアンケートでの満足度調査		70%
2023年	交流事業におけるアンケートでの満足度調査		75%
2024年	交流事業におけるアンケートでの満足度調査		80%
事業費	2022年：1,000千円 2023年：1,000千円 2024年：1,000千円		
継続に向けた事業設計	教育委員会や文化振興部局と連携しながら、継続的に交流事業が行える仕組み作り体制整備を行う。		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	村上海賊情報発信事業		
概要	総合パンフレットによる紙媒体でのアプローチ、PR ブース出展などリアルなプロモーションを実施し、幅広い世代に「日本遺産村上海賊」の魅力を発信する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	パンフレット類の増刷	村上海賊の構成文化財を紹介した総合パンフレットの内容を更新しながら増刷し、日本遺産巡回展、文化遺産パートナー講座、各イベント等で配布し、国内外へ日本遺産の魅力を発信する。	協議会
②	放送メディアへの撮影協力	放送メディア、特にテレビの番組制作に協力することにより、村上海賊、しまなみエリアの魅力を発信する。	協議会、フィルムコミッション等
③	イベントPR活動事業	文化庁が主催する日本遺産関連イベントやその他PRイベントに参加し、チラシなどを配布、ノベルティや試食品の配布、物販等を行いながら、村上海賊やしまなみの魅力を発信する。	協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年	地域外対象アンケートにおける村上海賊認知度		-
2020年			-
2021年			-
2022年	地域外対象アンケートにおける村上海賊認知度		40
2023年	地域外対象アンケートにおける村上海賊認知度		45
2024年	地域外対象アンケートにおける村上海賊認知度		50
事業費	2022年：500千円 2023年：500千円 2024年：500千円		
継続に向けた事業設計	デジタルに慣れ親しんでいない層に対しても紙媒体のパンフレットや、ブース出展などのリアルなコミュニケーションによりプロモーションを図る。		

(事業番号 7-B)

事業名	SNS などオンラインを活用した情報発信		
概要	村上海賊の情報発信を各 SNS を活用して若年層などデジタルに親和性が高い層へ向けて情報発信する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	HP 維持管理・情報発信	HP の内容を更新、維持管理するとともに、アクセス等の分析により、他の事業のターゲット層の絞り込みや事業内容検討の参考とする。	協議会
②	Youtube での解説動画配信	村上海賊について正しく理解していただくため解説動画を Youtube で配信し、幅広い視聴者に村上海賊の周知を図る。ホームページへの誘導、地域へのアクセス解説も行い、来訪の動機付けを図る。	協議会
③	SNS を活用した情報発信事業	Twitter 等の情報発信ツールを活用し、構成文化財の解説や新たな情報、四季折々の様子のほか関連イベント等について継続的に情報発信を行う。利用者が参加できるような投稿を増やし、フォロワーのエンゲージメントも高める。情報発信を行う地域内の事業者等に対して情報発信についての研修を実施する。	観光協会等、協議会
④	他団体が活用する SNS との連携	観光協会や行政等が運用する SNS と連携して共通のハッシュタグを使用するなど一体的に情報発信を行う。	観光協会等、行政、協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019 年	WEB サイトページビュー数		33,171 件
2020 年			54,420 件
2021 年			集計中
2022 年	WEB サイトページビュー数		50,000 件
2023 年	WEB サイトページビュー数		53,000 件
2024 年	WEB サイトページビュー数		56,000 件
事業費	2022 年 : 0 円	2023 年 : 0 円	2024 年 : 0 円
継続に向けた事業設計	情報発信等は協議会所属団体や、文化遺産パートナーも担い手となるよう、ワークショップ等の研修を行いながら、情報発信者を育成する。		

(事業番号7-A)

事業名	インバウンド情報発信		
概要	さまざまな切り口から海外の人々へ日本固有の海賊文化を有する村上海賊の魅力を訴求する。オンラインを活用し、海外にしながら村上海賊について知ることができる取組みを実施し、同時に当地域への来訪も促す。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	アニメの活用	日本財団海の民話のまちプロジェクトで制作した、村上海賊の構成文化財の島を舞台にしたアニメを多言語化し、世界発信する。	協議会、市、日本財団
②	キャラクターの活用	著名アニメクリエイターとコラボし、村上海賊の世界発信に向けたキャラクターを作成し、さまざまな媒体で活用する。	クリエイター、協議会
③	海外博物館との連携	国内大手物流会社との協定締結を契機として、海外のミュージアム等において村上海賊の資料展示等を行い、海外での認知度向上を図る。	海外博物館・ミュージアム、物流会社
④	しまなみアートミュージアムオンラインツアー	村上海賊を体験する謎解きオンラインツアー多言語でも実施。単にツアーをするだけでなく、参加者に積極的にエンゲージしてもらうことで、村上海賊の印象をを深める。	民間事業者、市
⑤	地域在住 ALT 等と連携して情報発信。	地域の文化に興味を持ち、また積極的に地域に関わっていききたいという地域在住の ALT 等と連携し、村上海賊の情報を外国語で発信してもらう。	ALT、協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2019年			716人
2020年	村上海賊ミュージアム外国人来訪者数		0
2021年			0
2022年			200
2023年	村上海賊ミュージアム外国人来訪者数		400
2024年	村上海賊ミュージアム外国人来訪者数		600
事業費	2022年：11,000千円　2023年：500千円　2024年：500千円		
継続に向けた事業設計	インバウンド誘客に取り組む地域事業者とも連携をしながら、地域一体での地域魅力発信に努める。JNTO、DMOとの連携により、単体ではなく規模のメリットを活かした取組みを実施する。各省庁の海外発信支援メニューも積極的に活用する。		